

沖縄県平和祈念資料館友の会 (会長 安田 国重)

**子ども達から「危機感」を感じる。
沖縄戦の歴史的教訓を正しく伝えていきたい。**

(平成 27 年 12 月 : 取材)

【実践事例紹介】

(聞き手 : 沖縄県平和祈念資料館 古謝将史)

○「友の会」活動の様子について

(聞き手) 結成当時 (平成 18 年頃)、89 名の登録者がいたそうですが。現在の在籍について教えてください。

(友の会) 現在の在籍は 29 名となっています。

(聞き手) 主な活動について紹介してください。

(友の会) 講話の内容としては、主に沖縄戦の体験談を中心に、沖縄戦や基地問題について平和学習で活用できる話をしていきます。内容については、基本的に依頼者の希望に応じて対応しています。一例ですが「原爆の被爆地から来た



活動初日の様子 (現 安田会長) 2007

高校生に平和のメッセージを伝えてほしい」など、直に要望を伝えてくる学校もあります。それについても対応しています。

講話やガイドを行う際の確認事項としては、友の会が県の出先機関である平和祈念資料館と連携して活動していることを前提に、私たちの伝える内容が、偏った主張とならないよう気をつけるということです。



友の会、平和祈念資料館、平和祈念財団関係者との意見交換会 2007 年

(聞き手) 県内外の児童・生徒たちに講話をなさっていますが、この 10 年間で、何らかの変容はありますか？

(友の会) 聞く態度については、県内外問わず良くなっていると感じます。興味や関心のある子ども達も多く、好印象を持っている。事前学習を

して講話に臨む学校と、そうではない学校とで聞く態度に違いを感じますが、全体としてはよく聞いてくれていると思います。年々、平和への関心が強くなっていると感じています。とくに最近では、平和の問題を自分の問題として考えているように感じます。子ども達から、いろいろな質問があるのでとくにそう感じます。

とくに最近では、子ども達から「危機感」が伝わってくる時もあります。



野外研修（ガマにて） 2009年

(聞き手) 「危機感」ということがありましたが、それは学校側の事前学習における意識づけが徹底されてきたからということでしょうか？ それとも、最近の社会情勢などから、子ども達自身が感じとったことだとお考えなのでしょうか？

(友の会) 後者の方だと思います。これまでも講話の際に「今後、戦争が起こると思う人」と質問をしてきました。以前であれば「戦争なんて起こるわけ無いさ」という声が多かったですね。でも、最近では「戦争が起こるかもしれない」と考える子ども達の割合が増えつつあるように感じます。とくに2011年以降でしょうか。社会からの情報やメディア報道の影響が大きいのではと感じています。



野外研修（摩文仁の丘）2010年

(聞き手) 学校向けの講話を行う際、課題などは何ですか。

(友の会) 学校に出向いて講話をする際に、全学年一斉での講話を依頼される時があります。小学校1年生から6年生まで一斉にです。私たち話し手としては、少なくとも低学年と高学年に分けてくれたらと思います。講話の内容や提示する資料も、発達段階で変わってくるからです。学校側からは授業時数の確保などで複数回での講話実施が難しいのかも知れません。しかし、講話での伝わり方や話の効果からすると、低学年と高学年に分けていただいたほうがより良いのではと考えています。

(聞き手) 「友の会」の組織としての課題は何ですか。

(友の会) 戦争体験者で講話ができる会員の減少が大きな課題です。残された会員が、戦争体験者のウミをしっかりと受け継いでいくための環境作りが急務です。

あとは会を維持運営するための資金確保でしょうか。

講話やガイドをした際にいただく協力金が収入源ですが、それだけでは会の維持運営には不足しているのが現状です。



平和祈念資料館講習会での講話 2011年

(聞き手) 「友の会」としての今後の役割と使命は何ですか。

(友の会) 沖縄県平和祈念資料館の設立理念をふまえ、「友の会」の活動を通して、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次の世代へ伝えるとともに、併せて会員相互の教養を高め親睦を図る事です。



カンボジア人研修員と 2014年

～ 「沖縄戦平和学習」今後のシェアリングのために ～

『残された会員がしっかりと受け継いでいく。』

今回は「沖縄県平和祈念資料館友の会」の活動について紹介しました。

当資料館の歩みとともに地道な活動を続けてきた友の会。県内外の児童・生徒などへの講話を通して「戦争」に対する危機感を子ども達から感じ取っていることが伝わってきました。高齢となり、健康面での不安感から、講話の予約についても確実な実施ができるかどうか会員同士で心配しているとのお話もありました。当館とは「沖縄戦の歴史的教訓を正しく伝える」という理念や使命感を共有しています。語り部としての役割を受け継ぐための研修会・勉強会なども、会員だけでなく当館職員とも協働していくことが求められているように感じました。

(沖縄県平和祈念資料館 古謝将史)